



表紙の写真  
「甲州織」

富士山の北麓に広がる富士吉田市を中心とする郡内では郡内織物と呼ばれ、今では、統一ブランド「甲州織」として全国に知られている。富士吉田市の生産高は郡内地域の約7割を占めていて、繊維関係事業所は富士吉田市全体で約1,200事業所、織機は約4,000台となっている。

織物がつくれるまでには様々な工程を経て多くの人々の努力が結実したものだ。織物に必要な糸を扱う糸商から製品を流通させる問屋まで、繊維産業に必要なすべてのラインが1つの町にそろっているのが、ここ富士吉田市だ。

「MUH」vol.29 2003.10.1

企画 / 早野グループ「MUH」編集室

深沢進・矢田道生・坂本孝治・望月賢・樋口明美・赤池さおり

編集 / 株式会社ニュースメディア甲府

三神弘・三井君男 / 高山ひとみ / 千野和美 / 相川礼子・荻野由香 / 宮塚利雄・杉村聡 / 浅川毅・標克明・永田宏

印刷 / 株式会社サンニチ印刷

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託したMate(仲間)Union(結束)Harmony(調和)の頭文字からとりました。幻のムー大陸のロマンを目指します。

<b>フォーラム</b>		<b>2</b>
テーマ <b>コンビニエンスストア</b>	江宮隆之・古屋久昭・岩崎正吾・佐藤眞佐美	
<b>対談</b>		<b>4</b>
山梨21 <b>みらい なな</b> さん	絵本翻訳家 山梨英和大学非常勤講師 塩山市立甘草屋敷子ども図書館名誉館長	
大自然の設計図 山梨の暮らしと、翻訳の仕事 いのちの輝き「葉っぱのフレディ」		
ホスト 早野 潔		
<b>トピックス</b>		<b>10</b>
忘れ去られたサーズ騒動に想う	宮塚利雄	
<b>ウォッチング</b>		<b>11</b>
河口湖 木ノ花美術館		
<b>サークル訪問</b>		<b>13</b>
東土会		
<b>セミナー</b>		<b>14</b>
現代美術「こうふ展」を楽しもう		
<b>山梨の伝統工芸</b>		<b>15</b>
甲州織「甲斐絹」		
<b>インフォメーション</b>		<b>16</b>
早野組・トヨタピスタ山梨・トヨタホーム山梨・甲府通運・ロード・やさしい手甲府		
<b>歴史</b>		<b>18</b>
C.S.イビー	上野晴朗	
<b>美術</b>		<b>20</b>
ボクのアート作品観察日記22	山本育夫	
<b>BOOK</b> こんなところに山梨...	<b>BOOKコーナー</b> 「遠い散歩 近い旅 山梨文学散歩」	<b>22</b>
お茶の間の民俗学(20)		
ふるさと意外史(1)	志摩阿木夫	<b>23</b>
<b>名峰からの富士山</b>		<b>24</b>
鳳凰山	上野 巖	
甲府通運前史を訪ねる(22)	林陽一郎	<b>25</b>
<b>ユーザー訪問</b>		<b>26</b>
中島 宏次さん		
<b>お家拝見</b>		<b>27</b>
植田 貴志さん		
<b>とこのひと・FACE</b>		<b>28</b>
株式会社ハートフルスタッフ八王子支店 介護支援専門員・看護師	大河内 由美子さん	
<b>やさしい手甲府</b>		<b>29</b>
介護保険情報		
<b>おしゃれ</b> ブラン・ドゥ・ブラン 甲府	<b>たべる</b> 鉄人の店 シュヴァル・ブラン	<b>30</b>
<b>コラム</b>		<b>31</b>
某月某日	杉村 聡	
<b>ロードのページ</b>		<b>32</b>
甲斐の細道 「高尾街道と小室道」	若林賢明	

毛

江宮隆之

年を取ると変なところに毛が生えてくる。昔、そんなことを思ったものである。

まだ駆け出しの新聞記者だったころ、デスクが記事に手を入れる。昔は今のようパソコン処理ではないから、鉛筆で線を引いたり、字を潰したりして文章を直してくれた。

その時のことを、先日ひょいっと思い出した。自分の手の甲を見ていたら、昔のデスクの手の甲にそっくりな毛を発見したからだ。太くて黒い毛が1センチほど立っている。それも一本ではなく十本ほどまとめて立っているのだ。

そのおぞましさといったらいい。一、二年前までこんなものは見たことがなかったのに。

すると、今度は妻から「あっ、こんなところに毛が生えてきた」と言われた。風呂上がりに上半身裸でいたら発見されたのである。

信じられないのは本人だ。というも若い頃から加山雄三の胸毛をスクリーンで見る度に「ああ良かった。あんなにみっともない胸でなくて」と思ったものだったからである。

今日もどこかで

古屋久昭

家から歩いて数分のところに、店屋さんが三軒あって、むかし私が子どもだったころ、親の遣いでよく買い物に行ったものだった。

どの店屋さんもおお体同じものを売っていた。ただ酒類だけは一軒しか売っていなかった。

三軒のうち二軒の店屋さんは道をはさんで隣り合っていた。いずれの店のおじさんおばさんも私はよく知っていたので、子ども心にも買うときにはそれなりに気を遣って、今日はこちらの店、明日はあちらの店、というように、公平に買うようにしていた。

田舎にあっては貴重な店屋さんであったから生活にとりあえず必要なものは、食料品を主に、たいいてい売っていて、どの店も早い話が雑貨屋さんであった。

店舗用の大型冷蔵庫が備え付けられてからは、店内の雰囲気もちょっと変わったりしたが、変わらなかったのは、おじさんおばさんの素朴で親しみのある仕草や言葉やあけっぴろげの明るさだった。

方言は丸出して、「金が足りんだけ、いいさ、負けとくじゃん」と気前もいい。

「坊、何を買うだ」と連れて回られ、時にはいい

それが、それが、である。この年になって、五十歳と六十歳のちょうど中間になって、胸毛が他人が気付かれる程度に生え始めたのだ。

同じことを知った友人は代わりに頭が薄くなってきたという。

どう考えてもこれは年齢の為せる技であろう。

駆け出し時代より少し時間が経ってから、まださほど有名になる前の、というよりもまだ作家になる前の某女史を取材したことがある。その後、作家デビューして某賞を取り、山梨出身の有名女性作家になった彼女だ。

取材中に気が付いたのが、デスクと同じ場所に生えているたくさんの毛。手の甲の剛毛である。メモする視線と同じ高さに彼女の手があったのがいけなかった。じっと見つめてしまった。

たぶん、恐れとおぞましさが入り交じったような視線であったに違いない。彼女は小さな声で言った。「コンビニで脱毛クリーム買わなくちゃあ。」

コンビニでそういうものを売ようになった頃のことである。

ちせかされてわずらわしい気分にもさせたりもしたが、気安く親しみ感があって、帰りにはお土産までもらってくる始末。

そんな思い出のある店屋さんを突然襲ったのがコンビニの出現だった。三軒のうち一軒の店屋さんは廃業、もう一軒は国道沿いにあった利を生かし、なんとコンビニに切り替えてしまうという逆手技をやったのけた。

そうして数年、今では私もむろん女房も娘もコンビニに飛びこんでの買い物である。頑張っている一軒の店屋さんにはおふくろがたまに手押し車を押し押し行く程度。腰や足が痛くなってからは、おふくろも最近ほとんど行かなくなってしまった。

申し訳ないなと思うのである。親しみも、ちょっとした言葉や心の交流も、不足分のサービスや値引きも、こうした店屋さんの心意気を、私たちは今や全く不要にしてしまっても平気であるのだ。

「商品というのは品物に心を付けて売るわけでしょ。」この言葉が死語になった社会、確かに不安はある。今日もどこかで店屋さんが廃業するか迷っている。

コンビニなんていらぬぞ

岩崎正吾

あるとき、わが友はつらつらと考えながら言ったことである。「それにつけても、われらの時代の変化のすさまじいことよ。」「さよう、さよう」とわたしも心からの同感を示す。われらが子どものころ、母親は洗濯板に汚れ物をこすりつけて洗濯をした。そのやりかたは、縄文時代とそう変わるまい。二千年よりもたった五十年の変化の方が激しいのだ。

「テレビなんかたいていの家になかった」「水道だって共同だ」「トイレは汲み取り式だったぞ」

自家用車を持っている人は町や村に一人か二人、舗装されてない道を砂埃を上げて走るのを、われら子どもは歓声を上げ追いかけたものだ。電話だって一家に一台になったのは長じてからで、まして生きて携帯電話を使えるなんて夢にも思わなかった。そうした変化が順次ではなくて、いっぺんに来たのもすごい。よくぞ気が変にならなかったものだ。

「しかし、あれやこれやの変化の中で、いちばんライフ・スタイルを変えたものは何だろうか」

こいつは難しい質問だ。わたしは宙をにらんで、しばし考えてから答えた。

拝啓、元総理大臣様

佐藤眞佐美

故塩沢清氏は生前「社会が変わっても子どもの心は不変だ。子どもが何を望んでいるかを知りたければ、己の幼少年期をふりかえってみればよい」と名言を遺した。肝に銘じていたのだけれど、心理学者や社会学者は「児童文学者の幻想だ」と一笑に付す。

子どもの基礎体温が35 前後になった。テレビ、漫画、ゲームなど、体を動かさずに遊ぶモノが増えたため、エネルギーを消費しないですむ。冷暖房完備で日常生活に寒暖の差がなくなり、自力で体温調整の必要がなくなったせいもある。紫外線は肌に害を及ぼす。母乳にダイオキシンが含まれているので赤ちゃんによくない。子ども漫画にセックスシーンがあふれ、深夜補導された子の親は「携帯で連絡を取っているから問題ない」と。

大学生が描いたニワトリの絵に脚が4本あった。砂漠へ植樹に行った若者が、コンビニのない世界には耐えられないと帰国。夜間照明で公園の花が勘違いして二度咲きし、木登りは危険、自転車は保護者同伴でなければ駄目。テレビ番組で一日に何人も人が殺され、テロの現場が戦争の風景が、リアルタイム

「コンビニではないかな」

自動車は馬の発展といえようし、携帯電話の伝達機能はノロシだって出来たろう。商家は昔もあったが、暗くなれば閉まってしまった。欲しい物があっても、翌日まで待つしかなかった。コンビニが生まれて、待つ必要がなくなった。欲望は(主として食欲だが)すぐに満たされ、かつ人間の夜の活動時間が広がった。夜型生活のわたしなどはコンビニの恩恵を受けてきたが、最近はなるべく行かないよう自制している。

コンビニは社会的には、功より罪の方が多だろう。電力の消費量が増え原発の増設を進めたるうし、ゴミを飛躍的に増やした一因といえよう。食欲が満たされすぎた結果、人々の肥満や過食、糖尿病など生活習慣病も増えたるう。また、コンビニの食品は添加物が多いから、いずれ健康被害の問題も出てくるのではないが。遠からずわたしたちの社会は生活を一変させた便利なものを批判する時が来るだろうが、その有力な敵の一つはコンビニになるだろう。

で茶の間で見られる時代。子どもも変わるワ。

犯罪の低年齢化が問題になっている。森喜朗氏が「今の親や教師の世代の人格は、日教組によってつくられた。国家、地域、家族に対し責任を持つことを教わらない人たちが大人になって、そこで育てられた子どもたちが悪くなるのは当たり前」だから教育基本法を改正すべきだ、と7月19日敦賀市で。

ヨーロッパでは家庭や乗用車およびホテルにクーラーがない。街に酒と煙草の自動販売機がない。コンビニがない。子どもが携帯電話を持ち歩く風景がない。だから子どもの犯罪が少ない、とは言わないが、子どもを気遣う配慮は、さすが先進国。さて、教育基本法改正で自動販売機や携帯電話が減り、若者が砂漠でコンビニを探さなくなるだろうか。

お立ち会い、テレビ番組から殺人を、漫画からセックスを追放しよう。洞窟探検をやってみよう。もっと自然と触れ合おう。樹海にコンビニはないけれど、土に触れる体験が多くなれば、怪我をすれば血が出ることも、傷つけば痛いことがわかるだろう。

江宮隆之  
1948年山梨県生まれ  
作家 第十三回歴史文学賞、第八回中村犀湖文学賞受賞。著書に『白磁の人』『政治の良心に従います』『骨董の底に揺られて』『一葉の書』『藤三奔る』『井上井月伝説』『武田勝頼の歳月』など多数。近刊予定に『真田昌幸』(学研M文庫)

古屋久昭  
1943年御坂町生まれ  
日本現代詩人協会 日本現代詩歌文学館評議員 詩集に『落日採集』ほか『産婦集』『虫しく花しく』エッセー集等

岩崎正吾  
1944年甲府市生まれ  
作家 山梨ふるさと文庫代表 現在 1冊でも本のつくれるオンデマンド印刷機を山梨に導入しようと奮闘中 また インターネット上で作家 出版活動をしようとする模索中 今春 新作ミステリー『探偵の冬』が刊行され同時に『探偵の秋』が文庫化される

佐藤眞佐美  
1939年北海道生まれ  
日本児童文学者協会 日本児童文学協会 著書に『怪奇!大東京妖怪』『怪!ゴブラス』(文芸春秋)『はるかな知床』(北海道新聞社)近著に『シレットのシルバー』(早稲田山梨の童話) (リブアウト出版) など



早野 潔

みらい なな さん

# いのちの輝き「葉っぱのフレディ」 山梨の暮らしと翻訳の仕事

大自然の設計図

ゲスト

**みらい なな さん**

絵本翻訳家 山梨英和大学非常勤講師  
塩山市立甘草屋敷子ども図書館名誉館長

ホスト

はやの きよし  
**早野 潔**  
早野組社長

## 山梨に移り住んで13年 美しい夕焼けに誘われて

早野 山梨県の塩山に住まわれて、もうどのくらいになられますか。山梨とのご縁は、どのようなことからだったのでしょうか。

みらい もう13年目になります。ある日、主人や友人と大菩薩峠に登りまして、その帰り道で、それは素晴らしい夕焼けと出会ったのがはじまりです。

夕焼けに、龍雲というのでしょうか、雄大な雲が湧き出て、圧倒されたのです。全員、タクシーから降り、この瞬間を逃すまいと、立ち尽くしました。すると、龍雲は、こんどは形を変えて、鳳の姿になりました。

早野 中国の想像上の動物で、縁起のよいしるしですね。

みらい 夕焼けの富士山との構図も、見事でした。しきりに感嘆していますと、タクシーの運転手さんが、ここではこうした夕焼けはいつも眺められるのだと、こともなげに言うのですよ。

ほんとかしら、と思いましたが、この地に、すっかり魅せられてしまいました。11月のことでした。

早野 山梨の自然が、大歓迎をしたのですよ。

みらい 翌週、箱根に静養に行ったのですが、大菩薩峠の帰路で眺めた夕焼けが忘れられません。今頃、あの夕焼けがはじまっているのかと思うと、気もそぞろです。

とうとう車を運転して、東富士道路を抜け、塩山に向かっていました。わたくしは運転が上手ではありません。おまけに見知らぬ土地です。

早野 あたりは、しだいに、暮れていきますね。心もとないですね。

みらい 車を止めましたら、あたかも道案内をするように、樋口一葉の文学碑への立札がたっていました。実は私、中学時代に一葉の「たけくらべ」で主人公の美登利役を演じまして、何か不思議な縁を感じました。早野 文学碑のあるのは、慈雲寺ですね。

みらい 思わず「一葉様」と呼びかけてしまったほどの、奇遇さでした。一葉の「たけくらべ」をはじめとするご本は、中学生の頃から親しんできました。

早野 塩山の中萩原は、一葉のゆかりの地で、ご両親の出身地です。

みらい 夕焼けがひろがり、招かれるように畦道を歩いていきますと、向こうから、おばあさんが歩いてきました。ここはよいところですね、と感動を伝えますと、住むのなら空いている土地があるよと、笑いかけ、さらには、人を紹介してくれました。

このときすでに、わたくしも、ここに住むことができたならと、心に決めていたのですね。

早野 不思議な出会いが重なりましたね。

みらい 夕焼けの美しさが、塩山に住む決意をさせてくれました。

早野 山梨の暮らしはいかがですか。地域とのお付き合いもおありですか。

みらい はい、お仲間に入れていただいて、小正月からはじまって、冠婚葬祭など、山梨の風習が身につきました。もう、ほかに行くところはないというほどに、すっかりこの地に落ち着きました。

早野 山梨には、どのような印象をおもちですか。

みらい あるとき、土地のお年寄りから「400年この方、この地に流れてきたのはあなただけだ」と言われたことがあります。歴史があり、みなさんが伝統を大切にされているのですね。誇ってよいことです。日本がここにあるな、とも感じます。

身近にいて、生活ぶりを拝見していますが、みなさん、人生の達人だなと、感心します。学ぶことの多さに、都市で育ったわが身を振り返ることもしばしばです。

## 塩山で誕生したベストセラー 中学の国語の教科書にも

早野 名作「葉っぱのフレディ」は日本全国の大人にも、子どもにも読みつがれて、いまや100万部という大ベストセラーになりました。このお作は、塩山の地で誕生したのでしょうか。

みらい はい。原作に出会ったのは、1995年で、翻訳は3年がかりでした。初版の発行は、1998年の10月のことでした。

早野 山梨の読者として、ことのほか誇りです。

わたしも、かつて、山梨県建設業協会の会長をしていたとき、あるパーティーでリサイクルや環境保全の話を進めるプロセスで、「葉っぱのフレディ」を引用させていただいたことがあります。いつの日かお目にかかる機会があればと、願っていました。

みらい いのちの循環、自然の循環のお話をされたのですね。

早野 このご本は、「いのちの旅」をテーマにされています。大きな木の



梢に近い、太い枝に生まれた「葉っぱのフレディ」が、太陽や月から光をもらい、雨や風に励まされて、木のためにも人のためにも、立派に役割を果たしていく姿を描いています。

「いのちというのは、永遠に生きているのだ」という言葉がここに残ります。

みらい 原作は、アメリカの哲学者、レオ・バスカーリア博士で、生涯で一冊の絵本です。

博士はこの絵本のメッセージに「死別の悲しみに直面した子どもたちと、死についての確な説明ができない大人たち、死と無縁のように青春を謳歌している若者たちへ贈りたい」と記しています。

早野 まさに、今日の日本の社会へのメッセージとして実感できます。わたしたちは、もっとも関心があり、切実な問いでありながら、たとえば親と子どもであっても、生きること、死ぬことについて、語る言葉をもち合わせていませんでした。

山梨県では「葉っぱのフレディ」が、

中学の国語の教科書に採り上げられているそうですね。

みらい 中学2年生の教科書です。早野 このご本が誕生した山梨で、しかも、自然に囲まれた山梨で、「フレディ」ともに「いのちの旅」を体験できるのは、幸せですね。

### 全国からの読者の手紙 「いのち」を語る共通語

早野 「葉っぱのフレディ」のなかには見えないところで、新しい葉っぱを生み出そうと準備をしています。大自然の設計図は、寸分の狂いもなく、いのちを変化させつづけているのです」とあります。

ことさらに「大自然の設計図」という言葉が印象深いですね。

みらい 原作には、「Plans」とあるだけです。

早野 なるほど、「計画」とだけあったのですか。翻訳のご苦労が伝わってきます。説得力のある言葉の発見ですね。

「葉っぱのフレディ」は、いまや、いのちを語る共通語になりました。読者のみなさんからのお手紙なども多いのでしょうか。

みらい 発売後、あっと驚いているうちに何千通ときまして、はじめのうちはお返事を書いていたのですが、一日に100通を超えるようになりますと、これはもう、断念するしかありません。

早野 ころに残っていらっしゃるお便りを、ご紹介いただけますか。

みらい 7歳の女の子から、「この本を読んで、世界がどうなっていくのかわかりました。これはとてもよい絵本でした」とお葉書をいただきました。わたくしは、こうした反応がいちばん欲しかったものですから、感動してしまいました。

それから、5歳の幼稚園に通っている男の子が、お母様のお手紙に、絵と文を添えてくれました。うねった線を描き、「ふうん、いのちは、くるくるしてるねん」と、ありました。

早野 大阪の言葉ですね。生活実感がありますね。

みらい お母様に読んでいただいて、子どもなりに、いのちというものを受け止めたのですね。「くるくるしている」とは、また、なんとよく出来た表現でしょう。いのちの「循環」を言い当てていますよね。

早野 山梨の読者からは、いかがでしょう。

みらい 農家の104歳になられるお年寄りからお手紙をいただきました。「もう、この本に書いてあることは全部知ってるよ」とありました。「全部知ってるよ」というのがとても素朴で、本当にそうなのだ、と感じました。

日本人の古くからの暮らし方や、悟り、観念というものと、「葉っぱのフレディ」の読後感とを重ねられたのでしょうか。

早野 体験や、身体で知っていたことを、ご本を読んで、言葉として納得し、共感されたのでしょうか。

みらい お手紙は、「全部知ってるよ」としたうえで、「フレディのように、わたしは、もう少し頑張って生きていこうと思います」と結ばれていました。エンピツで書かれたお手紙でした。

### 父の膝で聞いたグリム童話 幼年時代と本との出会い

早野 お生まれは、日本統治下の朝鮮半島、大邱だとうかがっています。

みらい 父は総督府の役人でした。敗戦となり、日本に引き揚げてくるまで、幼年時代を過ごしました。アメリカ軍が、午後、ティーパーティーを開

くときなどに、子どものわたくしを借りてきたのだそうです。

早野 可愛くていらっしゃったのでしょうか。お人形代わりだったのでしょうか。

みらい 早くから英語の環境があったともいえます。

早野 引き揚げてきたときの記憶などはおありですか。

みらい 船から覗き込んだ海の深さは覚えています。あとは、ただ、悲しいという感情だけが残っています。父は現地に留まり、母に連れられ、子どもたちは帰国しました。

早野 お父様のご出身地は何处ですか。

みらい 九州の天草で、先祖は佐賀の武家だったといえます。戦後は、東京で生活をはじめました。

早野 やがて翻訳家になられるという環境は、ご家庭のなかにあったの

でしょうか。どのようなご本に親しまれましたか。

みらい 戦後のことで、父も母も新しい生活のために忙しく、子どもたちだけで仲良く育ちました。わたくしには姉が二人おりましたから、放っておかれやすい子どもでした。たぶん、のろまで、ぼんやりしていたところもあったのでしょうか。

父が膝に抱いて、よくお話をしてくれたという記憶があります。とりわけ、グリム童話が印象に残っています。父は原書を開き、それを翻訳しながら聞かせてくれるのです。姉においてけぼりをくったり、嫌いな予防接種をした後などです。

父の開いている原書の、アリが這っているような文字が不思議でした。ですから、父は通訳なのだ、とずっと信じていました。

早野 そうしたことがあって、本好



きな少女に成長されたわけですね。みらい いえ、姉が「本の虫」でしたから、わたくしは、対抗上、「本を読まない虫」でした。そのくせ、姉の本棚には、たいそう関心がありました。

早野 なるほど、ご様子が目に浮かんできました。

愛情を伝える読み聞かせ 育てたい子どもの自主性

早野 ご家庭をもたれてからは、さて、お子様にはどのような教育をなされたのでしょうか。お父様がくださったように、お子様にもご本を読んでさしあげたのですか。

みらい はじめは教育ママをしようと身構えていたのです。ところが、

子どもが小学生になったときに、はたと、気がついたのです。子どもではなく、自分が勉強したほうがよっぽどいい、と思いました。宿題の世話もしませんでした。

早野 子どもも「これだけ勉強したら遊びに行ってもよい」などと言われなくていいですね。自主性が養われるかもしれませんね。

最近、図書館や公民館を中心に、絵本の読み聞かせが盛んです。「葉っぱのフレディ」も、もとより人気の絵本です。

みらい 絵本を間にして、親子が、また、人が集まるというのは、こころの世界をひろげていきますね。そこから生まれるものが、こころに映し出されて、遙かな記憶になっていき

ます。姿のあるものは言葉になり、言葉はまた、姿を結んでいきます。

早野 大人というのは性急ですから、子どもにもっと絵本を与えなければとか、教育になる絵本は何かなどと、神経をつかいます。

みらい 図書館や公民館などの読み聞かせでも、悪戯盛りの子どもたちを相手に、母親がてこずっていますね。せっかく読んであげても行儀よくしませんから、つい、「静かに聞きなさい」などと声を荒だてます。さらには、マイクを用意したりもします。

わたくしは、子どもの身近なところに本があるだけでいいのだと思います。子どもが本に目を向け、さわったり、撫でたりするだけで、はじめはいいのです。やがて、手に取り、

開いたりするようになるでしょう。本を選ぶようになるでしょう。読んで欲しければ持ってくるでしょうし、また、聞きたければ近寄ってくることでしょう。

早野 絵本への導き方というのが大切なのでしょうね。

子どもの本の世界も過保護ですね。書店でも図書館でも、夢のように設定されていて、また、管理されています。

みらい ところが、子どもは、あらゆる情報に囲まれていますから、もう、大人の世界のことは何でも知ってい

ます。それなのに、親も子どもも、親らしく、子どもらしくというお芝居をしています。自然がよいのだと思います。

早野 翻訳のお仕事は、また、絵本づくりはご苦労が多いでしょうが、いつも、どのようなことに留意されていますか。

みらい たとえていうなら、離乳食のように、言葉が食べやすいように、そして、食べたものが胸にすっきり収まってくれたならと、翻訳しています。言葉のつながりが、おうどんのように、するすると、おいしく食べ

てもらえたなら、とも心がけます。早野 愛情ですね。親も子どもにも本を読んであげるときには、この愛情をこめたいですね。

そうして翻訳された最新の絵本が「しあわせなモミの木」ですね。クリスマスのプレゼントにいいな、という読後感をもちました。

みらい 有り難うございます。さっそく読んでくださったのですね。

早野 この絵本の魅力は、これからお読みになる読者のみなさんのために、こっそり申し上げることにいたしましょう。 [構成:三神 弘]



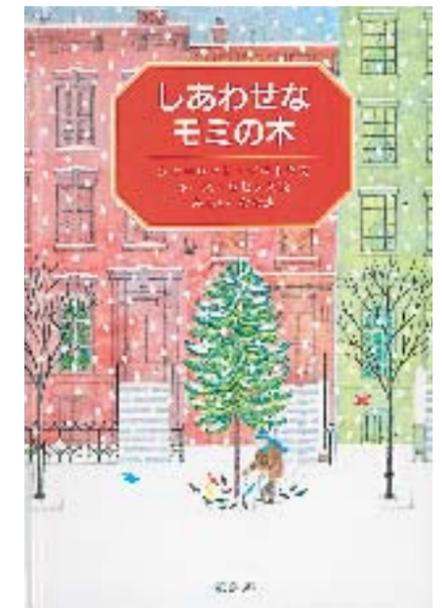
DATA



この絵本を、自分の力で「考える」ことをはじめた子どもたちと、こども心をもった大人たちに贈ります。わたしたちはどこから来て、どこへ行くのだろう。生きるとはどういうことだろう。死とは何だろう。人は生きているかぎりこうした問いを問いつづけます。この本が自分の人生を「考える」きっかけになることを祈ります。この本は、アメリカの著名な哲学者レオ・バスカーリア博士が「いのち」について子どもたちに書いた生涯でただ一冊の絵本です。 (童話屋)

『葉っぱのフレディ いのちの旅』  
レオ・バスカーリア作/みらい なな訳/¥1575

OPEN THE NEXT DOOR!



この冬 あなたの心に贈る  
最高のX'masプレゼント  
(童話屋)

『しあわせなモミの木』  
シャーロット・ゾロトウ文/ルーズ・ロビンズ絵/みらい なな訳/¥1236

9月1日は「防災の日」。関東大震災を忘れず、不測の事態に備えるために、1960年に閣議決定されたもので、この日は日本全国で防災訓練などが行われる。「災害は忘れた頃にやってくる」と言われるが常日頃からの災害に対する心掛けが大切になってくる。

ところで「人の噂も75日」というように、7月5日に世界保健機構（WHO）が終息宣言を出した「サーズ（SARS：重症急性呼吸器症候群）」騒動については、もはや日本人の関心事から消えてしまったようだ。筆者はこの夏、中国と北朝鮮の国境地帯を踏査してきたが、経由地の韓国や中国の空港でも、かつてのような物々しい警戒ぶりは見られなかった。

サーズは2002年11月に、中国の広東省で原因不明の肺炎が発生したのが始まりだった。そして翌年2月に広東省や香港、ベトナムなどで肺炎が集団発生し、中国全土に感染地域が拡大していった。4月16日にサーズの原因は新型のコロナウイルスと発表され、患者には38度以上の熱・悪寒・咳・下痢・息切れ・頭痛・筋肉のこわばり・全身の倦怠感などの症状が見られた。日本にもサーズに感染した台湾人医師が入院していたことが判明し、大騒動になったが、幸いにも日本人の感染者は出なかった。

感染者が最も多かった中国では、予防策としてマスクを着用、うがいや手洗い、人混みを避ける、といった物理的な手段のほかに、「キムチ」を食べるとサーズにかからないという噂が立つや、それまで韓国に輸出していたキムチを中国人が食べはじ

山梨学院大学  
経営情報学部教授

## 宮塚利雄

め、韓国にキムチが入って来なくなったという事態まで生じた。

サーズがアジア各国や日本経済に与えた影響は大きく、その爪跡は未だに深く残っている。サーズの蔓延で医薬業や保険業、消毒用品業、洗浄用品業界は「濡れ手に泡」方式の好況であったが、観光業、交通運輸業、大型小売業、飲食業、海外進出の製造業などはサーズの影響をもちに被った。経済やビジネスに与えた影響を要約すると、アジア主要航空12社の減便数が、4月下旬時点で週1000便を突破した。アジア開発銀行が4月下旬、アジア太平洋地域のGDPの伸び率を5.7%から5.3%へと下方修正した。中国最大の輸出見本市である広州交易会の春の成約額が前回の4分の1に縮小した。5月に北京を訪問した海外観光客が、前年同月比93.9%減少した。日本貿易振興会の調査で、アジア進出日本企業の7割が「サーズ

の影響がある」と回答した。（日本経済新聞：2003年7月6日付）

山梨県の中国に進出している企業も少なからぬ影響を受けたと聞いている。ところでサーズ騒動の最中、中国から相次いで外国進出企業のビジネスマンや駐在員などが一時避難したり、やむを得ず閉鎖または休業に追い込まれた企業もあったが、中国に根を張った日本企業の中には休業もせず、サーズという見えない敵と闘った企業もあった。北京に2店を出すイトーヨーカ堂は、「ヨーカ堂に感染者が出て閉店した」というデマが流れる中で、客の信用を失わないために、エスカレーターの手すりを消毒液で1時間おき、1日14回ふき、食品売り場には買い物かごを消毒液でふいてから客にわたす係員を4人置いたりした。その結果、感染のピークの5月でもほぼ前年並の売り上げを記録したという（朝日新聞：2003年6月14日付）。

「備えあれば憂いなし」とはよく言われるが、いつ来るかも知れない災害や輪禍に常日頃から心の準備しておくことは、なかなかできることではない。しかし、サーズについて言うならば、「災害は忘れた頃にやってくる」ではなく、限りなく「今冬にも再流行の恐れがある」という。韓国の知人から「キムチを食べていればサーズは恐くない」といわれたが、この程度の備えでサーズ汚染から身を守るなら苦労はないが、海外に進出している企業やそこで働くビジネスマンたちは、今春のサーズ騒動から学んで得た教訓を生かして、サーズという目に見えない敵と十二分に闘うことであろう。

## 忘れ去られた

## サーズ騒動に想う

広々とした敷地に、まるで物語から抜け出した様な建物が建ち並ぶ。レンガ作りの門柱では、まずダヤンがお客様をお出迎え。今年の6月にグランドオープンした、木ノ花美術館では、池田あき子の原画、猫のダヤンと仲間たち『わちふいーどりの不思議な世界』が広がっている。



## 河口湖畔に広がる 不思議・楽しい物語の世界

お話をうかがったのは、館長の古屋さん。「現実をフツと、忘れてしまう楽しい『わちふいーどりの不思議な世界』をまず、一人でも多くの皆様方に知ってもらいたいです」と語り始めてくれた。

「一番初めに目にする、グレーの外壁の建物。これはわちふいーどりに登場してくる『タシールエニット美術館』を再現したもの。実際にはこの中が展示場のスペースになっているんです。皆さん、この建物は...?っておっしゃるんです」と、楽しそうに語ってくれた。美術館のメイン、展示スペースはただ原画を見るだけでなく、来館者がど



## 猫のダヤン 池田あき子の世界 河口湖 木ノ花美術館

ーどりの世界を楽しめるか...何度もプランを練り、一年間の構想を経て、工事に着手した。

展示室では不思議な世界へ楽しい冒険が始まる

二階の展示室へ向かうと、大きなダヤンが、来館者を迎えてくれる。照明の調光にも気を配った展示場内では、両側に向けられた原画の数々が迷路の様に続く。自然とわち



木ノ花美術館

1998年に設立。現在の敷地より湖畔に近い場所にオープン。今年6月に現在の場所に移転、建物も全て一新しグランドオープンした。  
開館時間（年中無休）  
3～11月 9：00am～5：00pm  
12～2月 10：00am～4：00pm  
入場料  
一般・大学生 500円（450円）  
中学・高校生 400円（365円）  
小学生 300円（270円）  
（ ）は15名様以上の団体割引料金です。  
〒401-0304 山梨県南都留郡河口湖町河口 3026-1  
☎0555-76-6789(代)  
URL <http://www.konohana-muse.com>



ふいーどりの世界に引き込まれ、彼らの笑い声までが聞こえてきそうな雰囲気にも包まれる。

常時150点前後の原画が展示されており、年三回の展示替えをする予定。池田先生の最新書き下ろしの作品もここでなら見ることができる。

グッズショップでは、グランドオープン記念のカップなど、ここでしか買えないものもあり、ファンの人は必見、絶対購入の価値あり。

中庭には、オープンテラスが広がり、レストランカフェ「オルソンさんのいちご」へ続く。

「このカフェでは、オルソンさんのいちご畑をメインテーマにオリジナルのメニューをご用意しております。オルソンさんのいちごコーヒー・いちごパフェ・フローズンいちご・いちごクリームティーなど、どれもフレッシュないちごを素材に用いています。」

『わちふいーどりの不思議な世界』でドキドキ・ワクワクしたら、レストランカフェ『オルソンさんのいちご』でひと休み...。この他、ダヤンが描かれた食器で頂くケーキセット、ダヤンセットなども女性に大人気。



# グリーンヒル愛宕 誕生

これからはじまる新しい街づくり。

ISO 14001  
ISO 9001  
認証取得

## 株式会社 早野組

本社 □ 〒400-0807 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10  
TEL 055-235-1111 (代) FAX 055-235-1109  
● 三ヶ所営業部 TEL 055-232-0200  
東京支店 □ 〒193-0835 東京都八王子市千代町2-5-24  
TEL 0426-67-8800 FAX 0426-67-9497

中部支店 長野県飯田市東平2324-1 TEL(0265)22-3969 FAX52-2171  
静岡営業所 静岡県静岡市南町5-17 TEL(054)284-3808 FAX284-3919  
岐阜営業所 岐阜県岐阜市東橋の森町1丁目32 TEL(0572)55-2834 FAX55-0817  
駒ヶ根営業所 長野県駒ヶ根市赤穂3469-1 TEL(0265)33-0360 FAX81-5468  
南アサカ営業所 南アサカ市小笠原1355-5 MS C2/J23号 TEL(055)280-3187 FAX280-3189

<http://www.hayano.co.jp>

### 第1期一般分譲登録申込受付中

お問い合わせ先 現地案内所 ☎055-223-1188

## サークル訪問

汗で育つ 感性が光る  
街にめばえる文化探訪

根っからの絵画好きの集まり

## 刺激し合える仲間と生涯勉強 地域文化の広がりも目指す



### 東土会

東八代郡で活動している絵画の会「東土会」は趣味という域を超え、本格的な制作活動に取り組んでいる活気あふれるサークルだ。毎月一回の定例会は日中に写生に出掛け、夜は作品についての合評会を開催。一枚一枚の絵について真剣な表情で意見を交わし合うメンバーの姿が印象的だ。

東土会の歴史は古く、発足は三十四年前にさかのぼる。東八代地域の教員でつくった山梨美術連盟が前身で、現在は東八代地域に住む六十代を中心とする十五人で構成。山梨美術協会、山梨造形美術会、東京の太平洋画会の会員もいるなど、レベルの高さがうかがえる。

手掛ける絵は水彩画から油絵、日本画までさまざま。会長の五味良幸さんは「生涯かけて絵を学びたいという共通の思いを持っている仲間なんです。それぞれがジャンルの異なる絵に取り組んでいるので、とても刺激になります」と話してくれた。

その言葉どおり、合評会では「デッサンがしっかりしているね」「山の色が単調だな」など率直なコメントが飛び交う。時には厳しい批評も出るというが、五味さんは「メンバーの助言が作品の発展につながっている」という。合評会の後に開かれる恒例の懇親会ではお酒も入り、笑いが絶

えないそうだが、話題はやはり絵のことが中心。みんな根っからの絵画好きだ。

年に一度は絵画展も開いていて、メンバーが手掛けた作品約50点が並ぶ。例年五百人以上の人が訪れる人気ぶりだ。「絵画展などの活動を通して、地域の文化活動も広げていきたいと思う」と五味会長。常に上を目指して学び続ける姿は、羨ましくなるほど生き生きとしている。そんな姿こそが地域の文化活動を活気づかせていくのだろう。



### 東土会

東八代郡を拠点に活動している絵の会。山梨県内で最も古い絵画団体の1つ。現在のメンバーは15人。月に1回の写生会のほか写生旅行も開催している。毎年展覧会も開いていて、来年は4月25日から5月1日まで県立美術館で開催する。  
問い合わせ 事務局 深沢一真さん  
連絡先 〒406-0043 東八代郡石和町河内432-5 ☎055(263)2044

甲府市の中心商店街がギャラリーに变身する現代美術「こうふ展」が11月23日から12月7日まで開催される。甲府市にゆかりのある美術作家らの作品が街中に並ぶこの「こうふ展」は、現代美術を気軽に見て、楽しむことができる身近な美術展である。19回目を迎える今年は、甲府銀座ビル(旧トポスビル)5階に6月にオープンした「こうふアルジャン」をメイン会場に、中心街の空き店舗も活用しながら開催される。

「こうふ展」は市民に最先端の美術作品を鑑賞する機会を提供し、市民の文化意識を高めていこうという狙いで、甲府市と甲府市教育委員会が開催している本格的な美術展覧会である。出展する作家は甲府市在住や出身の人がほとんどで、毎年さまざまなジャンルの作家が参加している。今年は21人の作家が出展を予定。油彩をはじめ、藤工芸や染色、陶芸など多彩な作品を見ることができる。メイン会場となる「こうふアルジャン」では、油彩の作家11人が作品を展示する。アルジャンの広いスペースを生かして、100号サイズの大型作品を中心に80点以上が並ぶ迫力ある展覧会だ。

一方、街中の空き店舗を活用した会場では、身近な美術品であるクラ



## 中心商店街がギャラリーに变身 現代美術「こうふ展」を楽しむもう



フト関係の作品を展示する。6店舗でジュエリーや陶芸、錬金などの9人の作家が出展を予定。気に入った作品がある場合は購入交渉も可能ということで、見るだけでなく、手にとり、自分のものにする楽しみも味わえる。

期間中は出展している美術作家の何人かが会場にいる予定で、市民と作家が触れ合うことができるトークショーも計

画している。また子供向けのイベントも計画中で、土、日曜日にワークショップを開催する予定だという。「こうふ展」が街中で開かれるのは昨年に続き2回目になる。一昨年までは県立美術館や総合市民会館などで開催していたが、もっと身近で気軽に楽しめる美術展にしようと、巷でも注目されている街中での美術展を昨年初めて開催。その結果、期間中の入場者数はこれまでの3倍以上の約7000人に激増したという。

市民からはもちろん、出展している作家からも多くの市民に作品を見てもらえる機会になったと好評だった。また商店街からの反響も大きく、商店街連盟からの要望に応じて、開催時期を例年の2月から今年は11月に変更した。初日の11月23日は『えびす講祭り』ということで、さらなる賑わいが期待できそうだ。

期間中は駐車場もサービスを実施している。ワシントンホテル横の駐車場「かわせみ201」では、「こうふ展」の会場どこか1ヵ所でも見て駐車券にスタンプを押してもらえば、1日100円で利用することができる。1日停めても100円なら、のんびりと心行くまで楽しむことができそうだ。ますますパワーアップしそうな「こうふ展」。中心街を歩きながら晩秋の1日をのんびりと過ごしてみたいかがだろう。きっと今まで気付かなかった新たな街の顔に出会うことができるだろう。



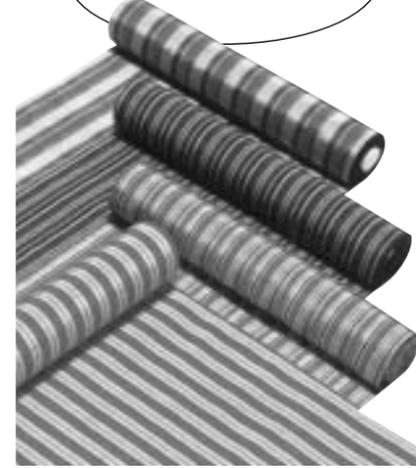
[文：荻野由香]

富士吉田市を中心に郡内地域は冷涼な気候に火山灰土である為、農業生産だけでは暮らしをたてることができず、そのためそれを補うものとして絹織物を織ってきました。

この郡内織物、江戸時代のはじめには郡内の代官で、生涯にわたる機業の振興を図った秋元但馬守の殖産興業策により生産、質量ともに著しく発展し、その品質の高さは遠く京都まで知られるようになりました。

元禄時代になると、平和になり、特に江戸の武士や町人達の生活が贅沢・派手になったため、当然質の高い郡内絹織物(甲斐絹)のような高級品が人気を集めました。こうして甲斐絹はますますその名を高めていきました。また、井原西鶴の浮

## 甲州織 「甲斐絹」



世草子「好色一代男」や「好色一代女」にも登場するなど、当時の風俗の中にも郡内絹を多く見ることができ、郡内絹がいかに市場に進出していったかを窺うことができます。

明治維新後になると設備の近代化や技術の高度化を果たしながら、新しい織物が織られるようになり、甲斐絹も時代とともに嗜好が変わっていきました。現在では服裏地はもちろんのこと、傘地、ネクタイ、寝具、座布団、コート地等、私たちの生活に深く浸透し、ファッション、インテリア、アート分野等で幅広く利用されています。

郡内の自然風土に育まれながら、これからも長年培われてきた「甲斐絹」のつややかな上品さを伝え続けていこう。

山梨県絹人織織物工業組合  
富士吉田織物協同組合  
〒403-0004  
山梨県富士吉田市下吉田 1877  
☎ 0555(22)2164

## 甲州織のできるまで



1. 糸
2. 撚糸
3. かせあげ
4. 染色
5. 繰返し
6. 整経
7. 釣込み
8. 管巻
9. よりつけ
10. 製織
11. 整理
12. 検査
13. 出荷



意匠図  
美しさを忠実に織物上に表現するために意匠紙という方眼紙に図案を描きます。



製織

## INFORMATION

### 南アルプス営業所開設

今年4月1日に誕生した南アルプス市に、8月1日付けで当社南アルプス営業所を開設しました。今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願いいたします。

〒400-0306  
南アルプス市小笠原1355-5  
MSCビル2-3号  
Tel 055-280-3187  
Fax 055-280-3189  
営業所長 小林 利幸



南アルプス営業所

### 国土交通省 中部地方整備局長表彰受賞

平成15年度国土交通省中部地方整備局長表彰の優良工事部門で、当社の平成14年度土岐川久尻河床掘削工事が受賞、優良工事技術者部門で、中部支店の横川浩昭工事が受賞しました。

また、中部地方整備局庄内川河川事務所長表彰の優良工事技術者部門でも中部支店の水野祐司さんが受賞いたしました。

当社ホームページはyahooの検索に「早野組」と入力しますと一発で検索できます。

(株)早野組 本社：甲府市東光寺1-4-10 TEL055 235 1111  
<http://www.hayano.co.jp>

### 欧州販売車「アベンシス」 10月遂に、日本上陸。



デザインから工場生産に至るまで、すべてがヨーロッパ仕上げ。100年を超えるクルマ作りの歴史と、本物を選ぶ厳しい目を持った欧州で高い評価を得ているミディアムカーが、新たなステージとなる日本の道を走り出そうとしています。欧州販売車「アベンシス」、いいクルマに国境なんてありません。

### Avensis Drivability

石畳の路地やアウトバーンといった、日本よりもはるかに過酷なヨーロッパの道路環境に鍛え上げられた走行性能。そしてゆるぎない操縦安定性、乗り心地、静粛性、そして確かな制動性能と、備わった数々の資質はまさに欧州基準。ぜひこの走りをお楽しみください。



ぜひお近くのピスタ店にお越しください。

トヨタピスタ山梨(株)  
本社：甲府市朝氣3丁目10 21 TEL055 232 5511

### トヨタホームは安心・安全NO1宣言

家宅侵入を未然に防ぐ先進の防犯アイテム。

【スマートキー】

鍵穴が見えない電波錠。玄関ドアのピッキングを防ぎます。

【窓施設モニター】

窓の施設状況を一目でチェック。先進の警報装置も付いています。

【録画機能付TVドアホン】

留守中でも自動的に録音・録画して、不審者を確認できます。

【合わせ複層ガラス】

簡単に割れない強靱なガラスです。

トヨタホームは、様々な防犯アイテムをはじめ、設計上の工夫や間取り全体から防犯対策を施しています。

### 地震に強い家「トヨタホーム」を ここに実証した大規模耐震実験。

トヨタ自動車は、今年2月4日、東海地震などを想定した4つの大規模耐震実験を実施・公開。マスコミをはじめ、各分野から高い注目を集めました。

マスコミに大公開！  
すべてのマスコミにオープン公開。  
大開口の窓付住宅で検証！  
実際のお住まいと同じ内容で検証。  
データに基づく予測地震波！  
政府・中央防災会議協力による最新の確実なデータ。  
業界最大の地震エネルギーで実験！  
過去最高の地震波でも実験。



阪神大震災の4倍のエネルギーでも、歪みゼロ！

トヨタホーム山梨(株)  
本社：中巨摩郡昭和町河西1043 TEL055 275 1234 FAX055 275 7806

## INFORMATION

### 速度抑制装置(スピードリミッター) 装着によるお願い

9月1日から車両総重量が8トン以上又は最大積載量が5トン以上の大型トラック等は、速度抑制装置を備えていなければなりません。これは90キロメートル毎時を超えて走行しないよう、燃料の供給を調整するものです。そのため、

- (1) 高速道路を使う遠距離輸送の場合は運行車の出発時間を早めるため、荷主様の集荷時間も早目をお願いしています。
- (2) 路線荷物の集荷時間は19時迄とします。月末

(28日～末日)は19時30分迄とします。19時以後の集荷荷物は翌日の配達に影響が発生しますので、ご協力をお願いします。

装置の装着を免除する自動車は離島(高速道路を有しない)に使用の本拠の位置を有する場合や高速道路を使用する蓋然性が低いと考えられる最高速度が100キロメートル毎時以下の自動車です。

当社のトラックは装着しなければ高速道路を運行できないこととなります。

甲府通運(株)  
本社：中巨摩郡田富町流通団地3329 1 TEL055 273 0611

### 人がいる・街がある・暮しがある 全ては道からはじまり、道は未来へと続く

現代社会...

移動手段としてなくてはならない車、人と車の安全を確保してこそ未来へとつながります。(株)ロードは、交通安全施設工事を通し社会貢献をしています。



子供達の将来に...

開発が進んで行く現在、子供達の遊び場が減少しつつあります。人と人のふれあいを育む親しみやすい公園作りを目指しています。



(株)ロード 本社：甲府市下小河原町262番地 TEL055-241-6161(代)  
FAX055-241-6118 e-mail uproad@pluto.plala.or.jp

### やさしい手甲府のサービス紹介 『訪問入浴介護』

訪問入浴介護とは、専用の入浴車でご利用者宅へ伺い、ご自宅での入浴介護を提供するサービスです。このたびやさしい手甲府訪問入浴センターでは、新しく日曜日と夜間の営業を始めました。これにより今後は曜日や時間を限定せずにご利用いただけます。無料体験もできますので、ぜひお気軽にご相談ください。(地域によりご利用できない場合がございます。お問い合わせください。)



入浴車

<お問い合わせ先>  
(株)やさしい手甲府訪問入浴センター  
(担当：長澤・古屋)  
電話055(236)5151

### ハートフルスタッフ 八王子支店がオープンしました！！

やさしい手甲府グループの株式会社ハートフルスタッフ(本社：甲府市美咲)は、介護専門の人材派遣会社です。これまで山梨県内の介護施設などからご好評頂いて参りましたが、この度東京都八王子市に新しく支店をオープン致しました。今後は県内外を問わず、幅広いニーズにお応えできるサービスを目指し営業して参ります。ご支援よろしくお願ひ致します。

(株)ハートフルスタッフ八王子支店  
東京都八王子市明神町2-14-2  
ステーションサイド京王八王子1F  
電話：0426(48)0170 FAX：0426(48)0176



(株)やさしい手甲府  
本社：甲府市朝日5-4-16 TEL055 255 6334

## カナダ・メソジスト教会から 日本伝道に派遣された キリスト教の伝道師

# C.S.イビー

(Charles Samuel Eby)

### 上野 晴朗

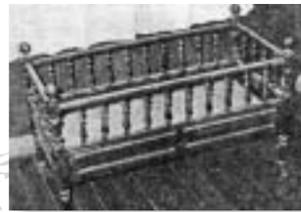
うえの はるお  
1923年山梨市生まれ 歴史家・作家 県立図書館郷土資料室  
を経て67年から文筆活動に入る 著書に「甲斐武田氏」等多数



宣教師C.S.イビー



イビーが用いていた家庭用品



子供用ベッド



イビーが用いていた机

私はこの人を思い浮かべるたびに、たくましい髭面と鋭い眼を思い起こしてしまう。しかし風貌には優しさがなんとなく漂っている。山梨に残されている資料には、日常用いたといわれる机とか、陶器の皿類、子供用ベッドなどがあるが、そこからもやさしい生活の匂いが漂ってくるように思う。

イビーはカナダのオンタリオ州に、弘化2年(1845)に生まれ、大正14年(1925)まで生きた人である。ピクトリア大学を卒業して、約五年間ドイツ系移民に伝道を続けていたが、明治9年(1876)9月カナダ・メソジスト教会から、第2回派遣宣教師として日本に送られてきた。第1回に早くも送られてきたのはカックランとマ

クドナルドの二人の宣教師であったが、これは明治6年(1873)のことで、維新から明治を迎えたばかりの日本は、明治6年、長く続いたキリシタンの禁制が漸く解かれた記念すべき年であったが、九州方面の隠れキリシタンが漸く認められるようになったとはいっても、全体的には一編に文明開化を迎えたわけではなく、まだまだ偏見の考え方が強く、とくに農村社会などでは邪教観が根強く残っていた。

だから最初日本に派遣されたカックランとマクドナルドの二人も、布教の宣教師というよりも、英語教師として歓迎されたのであり、二回目に派遣されてきたイビーらも又同様であった。

明治9年(1876)9月、日本に上陸するとイビーは最初箱根に仮住まいすることになった。それというのも中村敬宇が経営する「同人社」が、キリスト教の布教に力をかしていた

からで、その同人社の平岩愼保が英語で話せることから、同人にともなわれて山梨県の南部町南部の宿場で「蒙軒塾」を開いていた、近藤喜則のもとを訪れた。近藤の蒙軒塾で英語を教える約束がなされたのである。

これが山梨県におけるキリスト教が初めて伝えられた記念すべき年となったのである。それにしても山梨県の中で南部というのは宿場があるといっても、僻村の感が深い。どうしてそのような地にキリスト教文化が芽生えたのか。それにはまずなによりも「蒙軒塾」を創立した近藤喜則に焦点を合わせねば、内容が見えてこない。

近藤喜則は南部宿で本陣と名主役を務める家柄に生まれたが、その自伝「一家小伝」によると、少年のころ伊豆菰山の江川塾の江川英童に洋学を学び、まず西欧文化の偉大さに目を開かれたのだという。つまり山国甲斐よりも先進文化が早く伝わった、静岡側に出て学んだことが大きな利益となり、彼を山梨県内では傑出した人物に育て上げていたのである。

彼は明治に入ると、故郷の南部宿に帰ると村役人を務めるかたわら、私塾蒙軒塾を開いて子弟を養うようになったのである。おそらく「同人社」とも深く結ばれていて、英語教師の推薦をたのんでいたのではないかと思う。

蒙軒塾に入って教鞭を執るようになったイビーは、午前中平岩愼保の通訳で、ギゾーの文明史などを講義したという。また午後には宿舎にもどって聖書の講義をするようになり、とくにマタイ伝などを平岩の通訳で

教えたという。しかも大変注目すべきは、イビーが初めてマタイ伝を講義した所が、日蓮宗の妙法寺を使って行ったことである。

「加奈陀メソジスト日本伝道概史」を見ると、日蓮宗の寺院での講義は、日曜日特別な説教として行われ、布教の日には30~40人が熱心に聴講し、多いときには70~80人になってしまったと書かれている。その当時は町や村の集まり、催しには寺の本堂や庫裏、書院などが使われていたので、イビーの講義にも誰も怪しむ者はなかったという。ところが、日蓮宗総本山の身延山がこの話を聞き、キリスト教の布教に寺を使うのは怪しからぬと、カンカンに怒って、イビーを寺から追い出した一幕もあったという。

しかしイビーの日本での伝導熱はいよいよ盛んとなり、翌年4月には、県都甲府で教えることを決意し、一旦箱根に戻って夫人と子供をとめない甲府に行くことになった。



蒙軒塾を開いていた南部の近藤喜則、イビーを招いた人物

甲府行きは近藤喜則の薦めもあり、子息の近藤款久にともなわれての入甲であった。甲府でイビーを迎えたのは、浅尾長慶、内藤宇兵衛、新海栄太郎、根津嘉一郎らの西欧文化を吸収しようと計っていた、新進気鋭の若者達。彼等は甲府緑町の「英学義塾」にイビーをまず招聘し、さらに拠点として桜町四丁目にイビ

一の説教所がつくられた。場所は桜町の松林軒のある一角で、棟割長屋が続いており、そこがイビーの住居となり、また教会がその近くに建てられたのである。

甲府のキリスト教会が建てられたのは、明治11年(1878)7月のこと、多くの信者達の手によって竣工を見たのである。

イビーは甲府教会が設立されると、それこそ活発に本格的に活動を開始したが、さらに山梨全体に布教活動をひろげ、とくに勝沼と市川大門に多くの信者を獲得することが出来た。彼は長身の上、髭面、馬に乗って出掛けることも多く、大変立派に見えたという。また駕籠に乗って出掛けることもあり、甲府ではキリスト教の先生として有名だった。

イビーは明治14年(1881)7月まで甲府キリスト教会の宣教師を務めていたが、その地位を平岩愼保にゆずって東京に転出した。そして東京ではプロテスタント諸会派の統合に奔走し活躍している。とくに明治16年(1883)1月から4月まで、明治会堂を借りて有名な「東京演説」を行っている。その考えの中心というのは、ダーウィンとかスペンサーなどが唱えている科学思想に対抗して、あくまで内面史を中心とするキリスト教を擁護する立場を貫いている点、見事なものがある。

こうして日本でキリスト教布教のために活躍していたが、健康を害してしまい、明治27年(1894)静養のため帰国して行った。日本滞在19年、山梨には6年間居たことになる。

その墓はカナダのサスカッチワン州にあるという。



イビーが初めてマタイ伝を講義した南部町の妙法寺

妻を描きつづけた画家

数多くの浴槽の裸婦を描きつづけたボナール。今回はそのボナールが描いた「浴槽の裸婦と小犬」のエピソードを紹介しよう。

ボナールは画家になって以来、いつも裸婦を描いてきたが、そのモデルはいつも自分の妻・マルトだった。だから、ボナールが描いた裸婦は、その絵がどのようにしどけないと思われポーズであっても、どこか安心して見ることができる。画家とモデルの間に深い信頼感があると感じられることが、見る人の心を穏やかなものにするからだ。

見方を変えるとボナールの裸婦は、若き日のマルトから老いていくマルトの肉体の変化の記録のようにも見える。

七十代のマルト

実はこの「浴槽の裸婦と小犬」は、マルトが七十代のころの作品。加えてマルトはこの作品のモデルを務めた翌年、他界しているのだ。しかし絵の中のマルトはとても七十代には思えない若い肉体をしているように見える。ボナールはこの作品を、マルトの死をはさんで五年の歳月をかけて完成させている。マルトがモデルをした最後の絵でもあるのだ。画家とモデルの関係を考える上にも、興味深い一点である。

治療の湯浴み

マルトは人生後半の四十年間、毎日数時間を浴槽で過ごしていたという。よほどお風呂が好きだったのだねと思うところだが、別な見方もある。マルトは非常な潔癖症だったと

ボクの美術品観察日記

ピエール・ボナール  
「浴槽の裸婦と小犬」(一九四一〜四六年制作)

ピッツバーク、カーネギー美術館蔵

山本育夫

22

ミューリアム・マガジン・ドーム(DOME)編集長/アートマガジン・エル・アール(EL)編集長/まち見物誌ランデブー編集長/特定非営利活動法人つくなく代表理事  
中央公論、美術手帖、週刊朝日などに執筆。大学や美術館などでの講演も多数。美術品観察学会のメインゲスト主宰。参加希望者はyamaku@mxo.msn.ne.jpまで、参加費無料。

いう意見である。もっとも真実はほかにあったようで、マルトが患っていた結核生咽頭炎の治療のため、というのが正解のようだ。マルトは治療のために入浴していた。ボナールはそんなマルトを励ますように描きつづけていたのかもしれない。

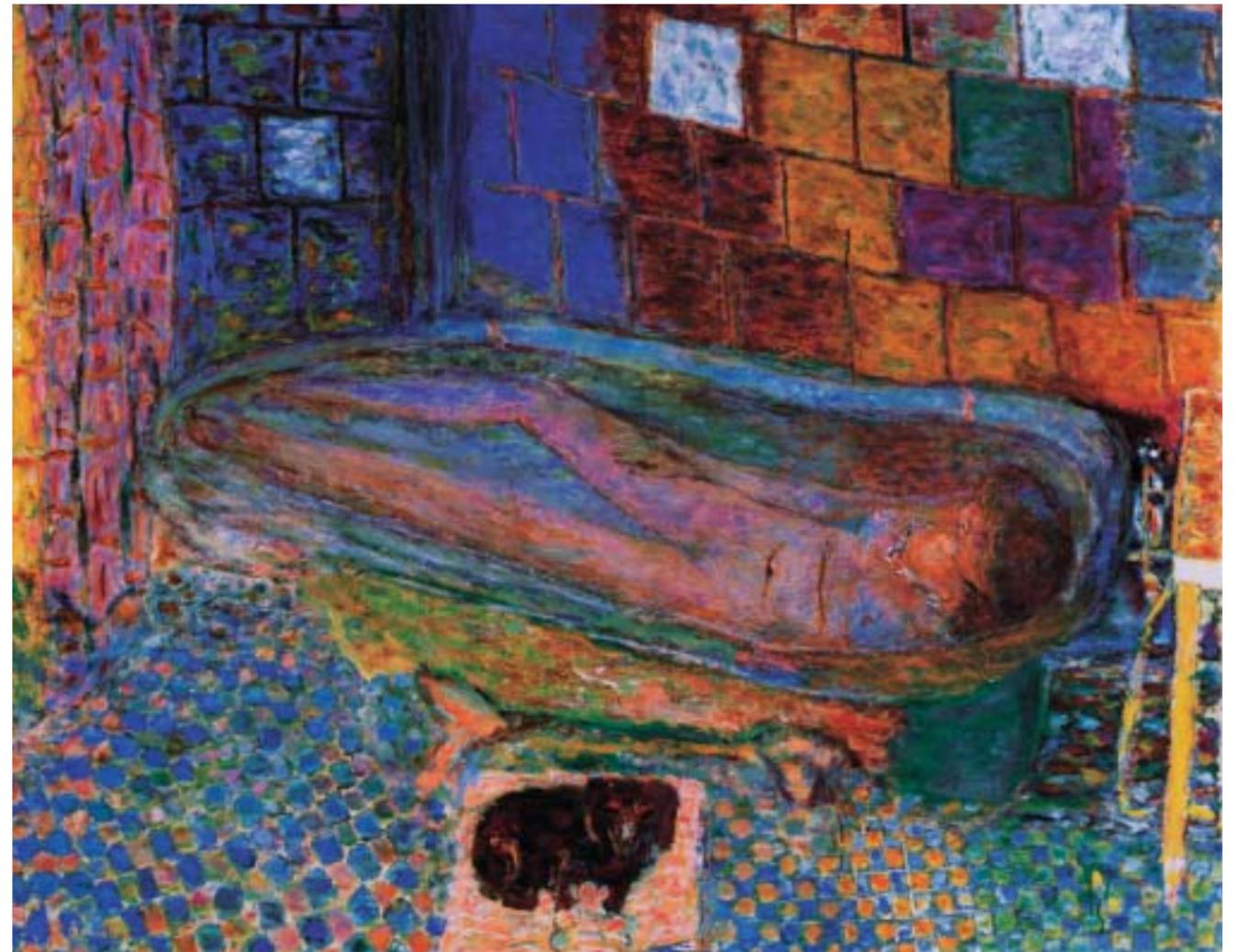
夫婦の対話

この絵は、ボナールがマルトの真上辺りから見下ろしたような構図で描かれている。左端のカーテンにはまばゆいばかりの外光が表現されている。反対側の光沢のある大きなタイルにはこの外光の照り返しが描かれている。床の小さなタイルには四角い光のたまりがあり、そこに小犬が座っている。

この絵は光の洪水の中で入浴するマルトの姿が描かれているわけだが、浴槽はどこか棺桶を連想させる。生と死の入り交じった光の部屋で、ボナールとマルトは最後まで対話を重ねていたかに見える。

マルトを通して

ボナールが描いた絵の中のマルトは、いつまでも変わることなく若々しい姿で描かれていると書いた。そのことは、ボナールが絵画の中で追い求めているテーマが、現実のマルトを描く喜びとはまた別にあることを意味している。この絵を見ると、ボナールのもう一つのテーマがよく見えてくる気がする。それはモネにおける「睡蓮」のように、色彩そのものが織り成す物語の追求というテーマだ。もう一息で、具象から抽象へと踏み出してしまいそうなほどに、画面は色面にあふれている。



「浴槽の裸婦と小犬」



光のカーテン



美術浴槽のマルト



日だまりの中の小犬



大きなタイル

天正十年(一五八二)三月十一日、名門武田氏最後の国主武田勝頼が織田・徳川の連合軍の進攻に屈して、現在の東山梨郡大和村地内で悲惨な最期を遂げたという話は誰でも知っていることだが、その最期の場所を一応に「天目山」として語り伝えられている。戦後流行した新民俗や観光案内にまで天目山という山中で勝頼一行が自害したような印象を与えているが、その天目山なる山は大和村地内には存在していない。

地図の上で天目山(一五七六)と示されている山は埼玉県秩父郡にあるが、この山と勝頼自害の地とは全く関係を持っていないので、それならどうして天目山という山の名がこの大和村に語り伝えられるようになったのかである。

郷土史の伝えるところによると、勝頼一行が最期を遂げたといわれるこの地田野集落に現在「天童山景德院」が

ふるさと意外史(1)

大和村地内にない天目山



行として建立させ、寺領七十五石と山林七里余りを寄進したが、この寺領はこれまで景德院から更に奥地にある武田家由縁の名刹「天目山栖雲寺(棲雲寺)」の寺領であった地を景德院領として寄進したのであった。この寄進状の中に「天目山栖雲寺領を景德院領として寄進する」といった内容の文字があったため当初は「天目山領の景德院」として一般に周知されるようになり、それが後々景德院を天目山と呼ぶようになったのであろう。

民俗学研究者 志摩阿木夫 (し ま あ き お)

ある。この寺は武田家滅亡の後およそ三カ月を経て甲斐の国を所領した徳川家康が、名門武田家の末路を惜しみ、同時に悲劇の道づれとなった家臣や従者たちの冥福を祈るため、武田家遺臣の小幡勘兵衛(尾畑勘兵衛)を普請奉

つまり、天目山とは寺の山号であって、山の名ではないので、当然地図の上にはない。ただ、この大和村地内には天目山という集落はあるが、勝頼一族が滅亡した場所はここだという記録がないので、郷土史の上では曖昧のまま天目山という呼び名が現在まで一人歩きしてきたのであった。

甲府・かんかん地藏伝説

まだいる、甲斐の武将

源平時代に名を馳せた

信玄の祖・武田有義

甲斐の武将といえば、どうしても、武田信玄に目を奪われる。ところが、郷土史を愛する人々に語られるべく、「いざ出陣」を待ちかねている武将が、まだまだいる。

山梨県民文化ホールパス停前、法輪寺の創建は文治二年(一一八六)、開基は甲斐源氏の流れをくむ武田氏六代・武田有義だ。武田氏をおこした武田信義を父に、塩部、飯田、小松の郷を治めていた。この有義から数えて十五代目、およそ三百年を経て登場するのが、戦国の英雄・武田信玄ということになる。

有義は平家の全盛時代に十代で都へのぼり、平清盛の長

男・重盛につかえ、その太刀持ちをするほどの人物だった。だが、源平の勢力争いは日ごとに激しさを増している。有義は、諸国に源氏は多く、武田氏はこの戦に旗を掲げてはならないと一族を説いたが、源頼朝に救援を請われ、甲斐源氏が挙兵したことから、やむなく乱世に身を

こんなところに山梨  
思いがけない場面で  
ふるさと再発見

おくことになる。

有義は頼朝のために、平家討伐の軍を率いて鎌倉を出発する。平家物語で名高い「鶴越の逆落」はこの年のことである。平家が滅亡すると、頼朝は甲斐源氏を恐れるようになった。強力な軍団ゆえに味方ながら不安で、有義の兄弟や一族に疑いをかけ、対立をしかけ、また、無実の罪を

着せていった。

こうしたなか、有義は、頼朝から鎌倉鶴岡八幡宮に招かれる。頼朝はいならぶ御家人を前に「わが剣を持って」と命であり、出世も約束されていた。しかし、有義はこれを断る。頼朝の世とはいえ、親兄弟への仕打ちは許せず、なによりも、甲斐源氏の誇りがある。また、かつて平重盛の太刀持ちをしたいきさつもある。頼朝も、このことを承知してのことだった。頼朝の罵声を浴びつつ、有義は、ひとり、鎌倉を去っていった。

やがて、頼朝の死後、鎌倉に騒乱がおこる。有義は將軍への望みを胸に武田軍団を率い、富士川沿いに鎌倉を目指していくことになる。有義は、正治二年(一一二二)、五歳で死去した。法輪寺の境内には有義の墓「かんかん地藏」がある。石で叩くとよい音がするところから、この名が広まったという。参考資料 「法輪寺とかんかん地藏」(寿)

法輪寺・刊

シリーズ山梨の文芸

「遠い散歩 近い旅 山梨文学散歩」

福岡哲司 著



山梨県立文学館の創設に参加し、また、評伝深沢七郎ラブレターで、TBSフジテレビ・開高健賞奨励賞を受賞した著者の、ふるさとの文学探してある。山梨県立文学館の創設にあたっては、作家の遺族との交流、資料収集の苦労とともに、資料の一点、一点に秘められたドラマに、思いを馳せる。また、作品からは知ることのできない、家庭人としての作家に、人間的な風貌を発見してもいく。

甲州にはお馴染みの作家たちが、著者の眼差しと語り口により、身近な存在になっていく。樋口一葉は果たして貧乏だったのか、どれほどの美人だったのか、芥川龍之介は甲州の旅で葡萄を食べたのだから、山本周五郎はよい作品を書くためにどんな食事をしてきたのかなど、文学ファンに、聞きたいけれども聞けない疑問にも応えてくれる。文学への親しみ、楽しさに誘われていく心地となる。

著者は、ホームページでも山梨の文学について掲載してくれている。(川)

「遠い散歩近い旅・山梨文学散歩」  
http://koketsu.hp.infoseek.co.jp  
山梨ふるさと文庫 ¥1,500+税



雲の上の黎明富士。手前の岩峰は薬師岳

見事なカラマツのオブジェ。中央は地蔵のオペリスク  
 ナナカマドの紅葉と赤い実



**【参考タイム】**

夜叉神峠の森	(45分)
夜叉神峠	(6時間半)
薬師岳小屋	(40分)
観音岳	
下りは5時間	

鳳凰山と一山にまとめていう場合もあるが、一般的には鳳凰三山という。それは、北から地蔵ヶ岳、観音岳、薬師岳と大きな山体の中に三つのピークがあるからだ。2840mの標高は、中央の観音岳のものである。この山は里から直接見えるので、古くから一般に馴染みのある山であった。とくに峡北地域の人々には、雪形の「農牛」が現われて春から初夏にかけての農作業の指針としたので、生活に直接かかわる山としても山岳信仰以上に貴重な存在だったのである。

南アルプスの主要山岳の中では、アプローチが比較的容易であったことから、登山者にとっても古くから親しまれ、多くの人々を迎え入れていた。白砂青松の稜線の美しさは、周囲に広がる山岳景観と相俟って、誰もが圧倒される素晴らしいものである。

主なコースは、韮崎市の小武川から御座石鉱泉あるいは青木鉱泉、そして鳳凰小屋経由のもの、南アルプス市芦安の夜叉神峠から、南御室小屋と薬師岳小屋経由のふた通りがある。いずれにしても、最低一泊は要する。夜叉神峠口までは、マイカーで入れる。峠までの小一時間を頑張ると、白根三山の連なりがある。そこから原生林の中に入って杖立峠、萐平と過ぎれば、道は平坦からやや下りになって南御室小屋に着く。時間によってはここ泊りだが、早朝の稜線を楽しむには、あと一時間頑張って薬師岳小屋に入りたい。

薬師岳小屋からはすぐ薬師岳に出られる。そこから緩やかな白砂のコースを辿り、最後岩石の重なりに登れば、もう世界をひとり占めがある。富士は薬師岳の岩峰の上だ。

**甲** 府通運株式会社の設立は昭和二十五年(一九五〇)十一月三日である。この時代の甲府の街はどんなであったのだろうか。当時現役で活躍された方々、昭和二十年代に生まれた人たちがとつての思い出をたどるために、今回は当時の甲府の街を眺めてみる。

掲載した写真は、昭和二十三年(一九四八)頃の甲府駅前の写真である。現在はここにエタランのビルが建っている。早野組創始者早野金蔵が笹子トンネル工事で活躍した中央線の鉄道は、明治三十六年(一九〇三)六月に甲府まで開通、この時に建てられた甲府駅は大正十三年(一九二四)の火災で焼失、その後建てられた二代目の駅舎である。写真向かって左に正面入り口、入ると左側に切符(乗車券)の販売窓口が並んでおり、改札口を通過してホームに出る。建物と建物の間に見えるのが下りホームと降車改札口である。その右手にある建物が小荷物取扱部門となっていた。さらにこの建物の東側(右手)にトイレがあった。

甲府駅北口の建物は昭和二十

甲府通運誕生の昭和25年、  
 当時の甲府の街をふりかえる



昭和23年頃の甲府駅と駅前広場 自動車も少なくオート三輪車が見える(写真集「甲府物語」より)

林 陽一郎  
 はやし よういちろう  
 甲府市教育委員会文化振興指導員・山梨郷土研究会

五年(一九五〇)に設置され、いわゆる線路北側の利用者が南側正面まで出なければならなかった不便は解消された。写真では見えないが、駅舎西側には駅員の出入りする入り口があり、ここには進駐軍用の鉄道事務所(US・ARMY・RTO)が置かれていた。この駅舎の西は貨物専用のプラットホームが朝日町のガード方面に向かってあり、黒塗りの貨車が毎日発着し、その貨物を運搬するためのトラックの出入りもはげしかった。自動車の出入り口は現在の信玄公園のある公園付近である。

写真の電車は、ポロ電の愛称で呼ばれた山梨交通電車の車輦で、昭和二十五年頃には写真のようにプラットホームもなく、甲府駅と平行した位置で停発車していた。ここがポロ電の甲府駅前駅であった。現在の山梨交通バスの発着場あたりである。

このポロ電は、明治三十一年(一八九八)に開業した山梨馬車鉄道(甲府(諏訪間)に始まり、「山梨軽便鉄道」甲府電車軌道」となり、昭和十三年(一九三八)に「狭西電車軌道」、さらに第二次世界大戦時の陸上交通事業調整法に基づき、県下数社の乗合自動車統合と同時に山梨交通となり、同社の電車部として営業を行うという歴史を辿っている。

運転区間は甲府駅前から増穂町青柳までの二〇・二キロメートルである。甲府駅前を発車、すぐに左折して駅前三角地の東側(現在は平和通りとなっている)を南下、中込百貨店(現山梨県情報センター)前を左折して旧県庁正面入り口と県民会館交差点を右折して南下、甲府郵便局・甲府警察署前・第一勧銀前(当時)をさらに南下して相生町・泉町・甲府二高・寿町・荒川橋と停車し上石田に至るが、昭和二十年(一九四五)七月六日の甲府空襲により架線施設が破壊し甲府駅前から上石田間は運休という事態に陥ってしまった。この区間の復旧は昭和二十二年(一九四七)まで待たねばならなかった。(以下続く)

家族全員、愛車はピスタ  
熱心で誠実な営業マンのスタイルが深い付き合いに



県内の大手釣具店と言えば誰もが知っている413年の歴史あるお店「シマヤ」、釣具の総合デパートだ。その昔、甲府市相生のお店周辺はお堀になっていて、魚を放流しては釣りを楽しんでた。それがきっかけとなり釣具店を始め、現社長の中島宏次さんは4代目となる。

現在、奥様と息子さんが一緒にお店に携わっており、一家揃ってのピスタ車ユーザーだ。トヨタピスタとはピスタ創立からの付き合いで、更に中島社長の娘さんが蘆崎にあるトヨタピスタに就職されたこともあり、深いお付き合いを長きに渡りされている。

現在4台のピスタ車を所有されており、中島社長はアリスト、息子さんは子供さんが生まれたこともあり、最新型のプラドTZを購入し愛用されている。「車は長年愛用するものですから、いいものを買えば、飽きることはないですよ。プラドは荷物も沢山積み込み、シートもゆったりと座れます

しね。安定走行が何より優れていません。車高の低い車に乗っていたのと同じ、視界も高く良くなりましたよ」と息子さんは言う。社長の中島さんはほとんど月曜日しか車を利用されないが、その1日だけで約400~500km走ることもあるという。「何しろ丈夫で、故障が無いね。安定した走りと加速がスムーズなところもピスタは最高ですよ」と笑顔で答えてくれた。

「トヨタピスタの担当営業マンは常に誠実で、気持ちの良い方ばかり。現場レベルで話しをしてくれますね。車もそうですが、営業マンとの付き合いも長くできてよかったですし、これからも続けていきますよ」と二人が声を揃えて語ってくれた。

現在釣り人口は増加の一途をたどっている。山梨県は溪流釣りやバスフィッシング等、釣りに適した土地・環境だ。釣り場の使用料は環境設備に還元され、自然とのギブ&テイクがしっかり成り立ってくれればと願う。



Data  
シマヤ釣具店  
甲府市相生2丁目4 23  
TEL.055 235 5821

明るい雰囲気にも包まれた  
家族がいつも一緒に過ごせる家



目の前に田畑が広がり、近くを川が流れるのどかな新興住宅地。その一角に7月に完成したばかりの植田貴志さん宅がある。住宅公園と同じタイプの「ノイエS」で、青空に映える優しいページュの外壁が目をはひく家だ。

玄関を入ると明るいトーンのフロアリングと白い壁が広がり、明るい雰囲気にも包まれる。いたずら盛りの1歳2ヶ月の莉朱(りあ)ちゃんが元気に動き回れるようにと、1階は15畳のリビングと6畳の和室の間に壁を設けず、2間続きの広いスペースにした。

キッチンには奥様の万里子さんの「子供の様子がいつも見えて、安心して

なっているようだ。寝室や子供部屋のある2階は、1階とはひと味違う雰囲気になっている。壁紙に黄色や青色のチェック柄を使うなど、遊び気分を取り入れたという。子供部屋は2部屋分あるが、1階と同様に壁を設けず11畳の広さのまま。将来的に子供の希望などに応じて分けることもできるように設計してある。また2階にはウォーキングクローゼットのほか3畳の納戸もあり、十分な収納スペースを確保。子供の成長に伴って増える荷物にも対応できるように考えられている。

万里子さんのお母様は、やさしい手甲府に勤めており、ご家族全員トヨタホームのご理解も深い。お姉さん夫婦のマイホームも12月に完成予定だ。

万里子さんの希望もふんだんに取り入れながら、「家族がいつも一緒に楽しく過ごせる家」という貴志さんの願いを実現した植田家。貴志さんとい時間も、莉朱ちゃんとお話しながらの明るい笑い声が聞こえてくることだろう。



## ■ 人材教育がなにより大切

背の高いとても笑顔の素敵な女性が現れた。訪問介護部の甲府エリアの責任者、通称エリアアンカーの大河内由美子さん。勤めて3年半になるという。主に訪問介護が中心の業務で、委託を受けてヘルパーさんを訪問させたり、電話の対応、苦情や相談に応じている。大河内さんがこの仕事を始めたきっかけは、看護師をしていたが、結婚を機に退職され、その後少しでも何かやりがいのある仕事と探していたところ、「やさしい手甲府」が立ち上げということを知り、最初はパートから始めたという。今では約100名のヘルパーさんの教育や相談を受けたりと日々忙しい毎日を送っている。

介護保険制度が施行されて3年が過ぎ、ニーズに合うサービスを考え、提案してきた現在、業績も着実に伸びつつけている。大河内さんは「訪問介護で何が一番大切か、それは各ご家庭を訪問するヘルパーさんの対応です」という。そのため教育には特に力を入れており、研修制度やヘルパーズスクール等を開催して日々向上しながらレベルの高いサービスを提供している。

「ヘルパーさんがいきいきと仕事ができる環境を整えるのも私どもの仕事です。相談を聞き、それに対するアドバイスをしたり、時には一緒に訪問させていただくんです。たくさんの方との出会いがあり、大変なこともある中、とても楽しくやってこれたことが一番ですね」と笑顔を見せてくれた。

## ■ 日々新しいアイデアの提供

大河内さんは9月から八王子に業務展開する株式会社ハートフルスタッフに勤務する。やさしい手甲府グループであり、利用者にきめ細やかな介護サービスの提供を目的とした人材派遣会社で、大河内さんは八王子でのリサーチをし有能な人材を発掘して、人員を揃え、営業展開していくことを任されている。

「マーケットにより良いサービスを提供するために日々新たなアイデアを出していかなければなりません。不安もありますよ。でもそれがやりがいにつながり、今はわくわくドキドキですね」といきいきとした表情で語ってくれた。これからの活躍が期待されている。

## 女性のきめ細やかなサービスから生まれる やりがいのある仕事



株式会社やさしい手甲府  
訪問介護部甲府エリアアンカー

9月より  
株式会社ハートフルスタッフ八王子支店出向  
介護支援専門員・看護師

大河内 由美子さん(竜王町)

## 介護保険情報

### 介護保険ABC



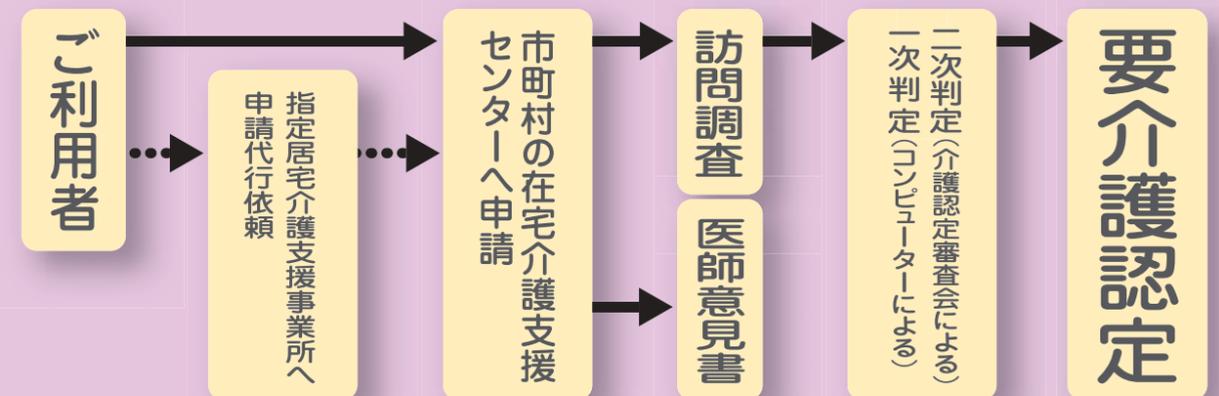
#### 【1】介護保険制度とは…?

平成12年4月から始まった介護保険制度は、介護を必要とする人やその家族が抱えてきた不安や負担を社会全体で支えあうためにつくられた制度です。運営主体(保険者)は市町村であり、高齢者が住み慣れた地域の中で安心し、自立した生活が送れる環境を作ることを目指しています。利用できるのは、65才以上の要介護(常に介護が必要な状態)また要支援(日常生活に支援が必要)と認定された第1号被保険者、40~64才の痴呆や脳卒中など老化が原因とされる病気で要介護・要支援状態になった第2号被保険者の方です。

#### 【2】介護保険制度を利用するには…?

実際に「介護保険制度を利用したい」と思ったら、まず「要介護認定」の申請が必要になります。申請はご本人の住む市町村に、ご本人またはご家族により行なうことができます。しかし現在では指定居宅介護支援事業者のケアマネージャーに申請代行を依頼するのが一般的になっています。申請を行なうと、訪問調査員が自宅を訪ね、ご本人の日常生活の状況等を調査し、要介護認定に反映させます。

<要介護認定まで>



☆次回は、要介護認定からケアプランの作成まで。

### おやおや困ったどうしよう?/こんな時お電話ください。



高齢者のための相談窓口

安心電話

055-232-0808

www.arms-net.com/anshin/

おやおや  
『安心電話』 055-232-0808

『安心電話』は、高齢者に必要な介護・住まい・外出・食事など在宅生活の心強いパートナーです。お電話1本でご相談に応じ、サービスの手配をいたします。登録に際しての費用は一切かかりません。いざ!という時のために、ぜひ登録ください。会員登録者には、『安心電話』の電話番号のステッカーと詳しい説明資料をお送りします。

<『安心電話』は協同組合山梨安心サービスが提供しています。>

#### 『山梨安心サービスとは』

21世紀を迎え高齢者が自立できる社会を目指して、地域社会へ貢献しようと意志を同じくした山梨県内の有力企業組合員が集まって平成13年に設立されました。

☆山梨安心サービスのホームページからも登録できます!

<http://www.arms-net.com/anshin/>

介護保険に関するご相談は TEL055(255)6334

在宅介護のヒューマンケアサービス  
株式会社 やさしい手甲府



<http://www.yasashiite-kofu.co.jp>

### 病院を選ぶ時代

×月×日

この夏は妻の体調が思わしくなく、一緒に病院めぐりをやった。彼女はインターネットで様々な情報を得ているので、非常に心強い。いわく「A病院のB先生は、この検査に優れていて、B先生の検診してくれる木曜日でない」とA病院に行く意味が無い...」などと言う。

私は、重い腹痛や風邪等の時に病院に行くだけだから、数年に一度しか病院という施設を訪れないのだが、妻はいろいろと試してみたいと言う性格なので、3~4件の病院を一緒に回った。そうして、私の知っている病院に関する認識は、もはや時代遅れなのだと気付いた。

大病院に行くと、院内にレストランからコ

ンビニはたまた銀行のATMまでそろって、まるで病気を主題にしたテーマパークのようであったし、逆にある治療のスペシャリストを謳っている病院では8時間待ち(廊下の椅子で)を経験してしまった。最初のうち妻は、「あそこは野戦病院みたいで嫌!」と言っていたのだが、交通の都合その他諸々の事情から、結局は広尾のN病院に決めた。

我々は、海外旅行等をする旅行先の都市の有名ホテルをインターネットで調べておいて、実際訪れた際にバー等ちょっと使用して楽しむ。ホテルと同じように病院も、患者さんが選択する時代になってしまったようである。

### 六カ国協議において アメリカが受け入れられないもの

×月×日

私は国際・政治問題の専門家ではないが、ある程度アメリカに住んでいたことから、彼らが北朝鮮に対して抱いている感情は類推できる。

この夏、六カ国協議で「体制保障」VS「核開発放棄」が議論された。これは無茶な話で、到底まとまるわけが無い。このような協議の本質は、先ず話し合いのテーブルについて、相手を見極めるところにあるのであって、両者ともに話がまとまると思っていない。

大体、遠いアジアの国でしかも科学技術力に劣っている北朝鮮が、核開発をしたからといってアメリカは何の痛痒も感じない。しかも韓国・北朝鮮と言う朝鮮半島の体制は、きわめて不安定であり、保障などできるものではないのである。

北朝鮮の国家権力は、有態に言って世襲されている。現代社会にとっては非常に稀なことである。加えて人権問題に関して国際的な非難を多く浴びているし、また事実

人権抑圧の証拠・証人もある。古くはイランのパーレビ朝(これはアメリカが保障していた)、ルーマニアのチャウチェスク政権(旧ソ連の保障)、ちょっと歴史を遡って他の国の例を見ると、自国民を抑圧して独裁的な権力を握り権力の世襲を企てた国家体制が不安定なものとなるのは明らかである。まただからこそ危機を感じた独裁体制側が、急速な軍備の増強(核開発を含む)を行い、近隣諸国に保証を求め、隣国には民族統一という名の融和を画すことになるのである。

冷静に考えると、「安全保障条約」などを結んでこのような国の政治体制を保障することは、アメリカ的に考えると当に「政治的自殺(Political Suicide)」を意味する。先ずもって条約を結ぶことなど原理的に不可能に近い。開催国の中国は、無理なことを始めから知っていて、テロ対策に忙しいロシアと共に無理を承知で話し合いのテーブルに付いているのである。

[文:杉村 聡]



## 某月某日

# おしゃれ

家庭的な雰囲気が漂う  
リゾートホテルが登場!

### ブラン・ドゥ・ブラン 甲府 Blanc de Blanc

二〇〇三年九月一日にオープンしたブラン・ドゥ・ブラン甲府は、フランス・アルザス地方の家庭的な雰囲気が漂う高品位ホテル。吹き抜けのエントランスロビーは解放感にあふれ、訪れた人々に憩いのひとときを与える。客室は、ジャグジーを設置した滞在型のスイートルームや、シングルルームなど三十七室。料金も八六〇〇円からとリーズナブルに設定され、ビジネスニーズにも充分に対応している。

また、専属の女性スタッフが丁寧に対応している。また、食器は全て、フランスのレイノ社製で統一。井上シェフのこだわりが随所に現れている。ソースの味はもちろんですが、メインディッシュだけでも超一流のフランス料理の味がぜひ一度、ご堪能下さい。



キッズルーム



今年、クリスマススペシャルプランとして、『デイナー・宿泊・朝食』をペアで三九、〇〇〇円(サービス料込・税別)限定一日十組が大好評。ミラレゼント&シャバンサイピスもあるこのお得なこのプランは絶対にオススメ。ぜひご利用下さい。

定休日 年中無休  
所在地 中巨摩郡田富町山之神 3616-4  
(オギノリバーサイド北)  
TEL055-273-0003(代)



超一流のフランス料理  
井上シェフの味がここに

### 鉄人の店 シュヴァル・ブラン Cheval Blanc

ブラン・ドゥ・ブラン甲府のオープンに伴い、山梨の食文化に多大な影響を与えるホテルレストランがオープンした。フランス料理の第一人者、日本が誇るシェフ・井上旭(のぼる)氏が、リゾートカジュアルフレンチの世界を山梨で展開するお店だ。インテリアはホテルレストランとして、華美過ぎず白を基調とした、優しいソフトなイメージに仕上げている。店内に入ると、左側には、棚ごとに温度調節が可能なワインカーブがあり、ワイ



テラスから差し込む日射しがこころよい店内

ン一本一本の産地、特徴に合わせ保存管理している。また、食器は全て、フランスのレイノ社製で統一。井上シェフのこだわりが随所に現れている。ソースの味はもちろんですが、メインディッシュだけでも超一流のフランス料理の味がぜひ一度、ご堪能下さい。



営業時間  
ランチタイム 11:30 ~ 14:00(LO)  
ディナータイム 17:00 ~ 21:30(LO)  
定休日 年中無休  
所在地 ホテルブラン・ドゥ・ブラン 1F  
TEL/FAX 055-274-2200

## 信仰への道

## 高尾街道と小室道

## 高尾街道

甲府から西郡への道に戸田街道がある。この道から下今諏訪で分かれて高尾山穂見神社(旧櫛形町)へ向かう参詣の道が「高尾街道」である。穂見神社は、御正躰に三躰王子を祀り古くから五穀豊饒・養蚕成就・商売繁盛の神として、甲斐だけでなく信濃、駿河にわたり信仰の広がりを見せ、各地に高尾講が作られ、江戸時代後期(幕末)に隆盛を極めたと伝えられている。高尾祭りの賑わいは、江戸もかなわぬほどの人出で、甲府方面から釜無川を渡り参詣に来る人々の混雑を今諏訪渡船場で取り締まったといわれている。その道筋は下今諏訪、県道甲府櫛形線から西野を経て、倉庫町関屋を横断し、曲輪田に通じる。そしてこの曲輪田を高尾山への登山口として穂見神社へと上がっていく街道である。

## 小室道

甲斐と駿河を結んだ古道に「駿州往還」がある。この道は河内領の日蓮宗総本山身延山久遠寺へ参詣する人々の道筋で「身延道」とも呼ばれていた。

この駿州往還から枝分かれし、日蓮上人にゆかりの深い妙法寺に参詣する道に「小室道」がある。この



高尾街道(曲輪田)

道は鯉沢宿(鯉沢上町小室道入口)を発し、増穂町小室山徳栄山妙法寺に至る道である。妙法寺は、身延参詣の道者の立ち寄る霊場であって古くから栄えるが、もとは真言宗で金胎寺と称していた。文永11年(1274)に日蓮との法論に敗れ、日蓮宗に改宗したと伝えられる。法論の際、住職の善智は毒入りの餅を日蓮に供したが、日蓮はこれを見破り犬に与え、一度死んだ犬を法力により蘇生させたといい、この伝説に基づき同寺が発行する毒消し護符は落語「鯉沢」に登場するほど著名である。また、小室は中世の河内路の要衝であり、門前にも口留番所があったといわれる。

『井川山林巡視日記』の著者右田半四郎は、明治28年8月15日の記述に、「小室の山上に至れば、甲斐の平原一望の下に集まる笛吹・釜無



小室道の番屋跡付近

の二川長蛇の如く富士川は白布を敷く如し、稻田蒼々の間に村落参差道路縦横せり、甲府の市街煙霞模糊の間に隠見し、金峯・御獄の二峯は、富嶽に面して立てり、真に一幅の好活図なり」と道中小室山からの見事な眺めを記している。

旅に疲れた道者たちはここで心身を癒し、再び身延への旅路に向かって行った。このように小室道は、甲斐を眺める絶景の道でもある。

(写真:若林賢明)